

# 海外生活 エッセー

ロンドン事務所

## ヴィーガン先進都市ロンドンにおけるエコな食生活

(一財)自治体国際化協会ロンドン事務所 所長補佐 中村 萌子 (東京都派遣)

ここ数年、耳にする機会が多くなった「ヴィーガン」という言葉は、肉や魚だけでなく、卵や乳製品を含む動物性食品を一切口にしない「完全菜食主義者」を意味し、こうした人々に対応する食品がヴィーガン食品です。ロンドンで生活を送る中で驚いたことのひとつが、この都市におけるヴィーガン食品の多さでした。2019年時点で英国のヴィーガン人口は60万人を超え、その数は4年間で4倍に増加しています。これに伴い、ヴィーガン食品を扱う市場も急速に拡大しています。

ここでは、ヴィーガンフレンドリーな都市とされるロンドンでサステナブルな食生活を選択する人々の考え方やヴィーガンの普及に向けた地域の取り組みなどについて紹介します。

### → 豊富なヴィーガン食品の選択肢

ロンドンのスーパーマーケットには、ヴィーガン向けの食品が豊富に取り揃えられ、ヴィーガン食品のみを扱う専門店も次々に誕生しています。カフェやレストランにおいても、必ずと言ってもよいほどヴィーガン対応のメニューを見かけることができ、消費者に対して植物性食品の選択肢が幅広く提供されていることを実感します。

数多くのヴィーガン食品の中でも特に目を見張るのは、植物性ミルクの台頭です。スーパーマーケットでは、牛乳売り場の近くにオーツミルクやアーモンドミルク、ココナッツミルクなど、多種多様な植物性ミルクが幅広く取り扱われています。現在、英国人の3人に1人が牛乳の代わりに植物性ミルクを



牛乳売り場に陳列される植物性ミルク

購入しているという調査結果からも、人々の間で植物性食品を選択するライフスタイルが浸透していることが分かります。

### → ヴィーガンを選択するさまざまな理由

そもそも、なぜ英国人は植物性食品を好むのでしょうか。その主な動機として、健康や宗教上の理由のほか、環境問題や動物愛護への意識の高まりなどが挙げられます。近年は、家畜から排出される温室効果ガスの一種、メタンガスの排出削減に向けた議論も広がっており、2020年に英国において動物性食品の摂取をとりやめた人を対象とした調査では、食生活を変えた理由として、環境問題を挙げた人が30%にも上っています。

### → ヴィーガン食品の普及に取り組む自治体も

こうした世の中の動きにあわせ、地方自治体においてもヴィーガン食品の普及に向けた取り組みを進めています。ロンドンのルイシャム・カウンシルでは、2020年より自治体が主催するすべてのイベントにおけるケータリングについて、ヴィーガン食品を提供することが決定されました。同地区内の公立学校においては、週に一回、一切肉を使用しないヴィーガンメニューの給食を提供する日を設定しているほか、地域住民を対象としたヴィーガン料理教室も開催しています。

### → 地球を守るための選択

英国においては、普段何気なく行う選択や行動が、地球環境にどういった影響を与えているのかについて考える人がすでに一定数おり、これに合わせて、多様な食の選択肢が用意されているものと思われます。食生活をはじめとする、日常における小さな選択が、地球を守るための一歩につながると信じているのです。